



2015年1月

発行：香川県埋蔵文化財センター
〒762-0024
香川県坂出市府中町字南谷 5001-4
tel: 0877-48-2191 / fax: 0877-48-3249
HP: <http://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/>
E-mail: maibun@pref.kagawa.lg.jp



今年度も讃岐国府跡の発掘調査が始まりました



▲発掘体験に参加した子ども達

平成26年度の讃岐国府跡の発掘調査が11月から始まりました。今年度は、讃岐国府跡の場所を確定することができた平成24年度の調査地を中心に、例年よりやや広い範囲を調査しています。平成24年度の調査では、瓦葺の板塀とその南側で大きな柱穴跡が重なり合っており、古くは高層の建物に用いられていたことがわかりました。また、大きな柱穴が重なり合うことは、大きな建物が同じ位置で建て替えを繰り返したことが考えられ、長期間にわたって大きな建物が同じ位置にあったことが想定できます。しかし、この時の調査では調査面積が限られ、建物の具体的な大きさや配置は明らかになりませんでした。



▲発掘調査風景

今年度は、瓦葺の板塀で区画された場所、どのくらいの大さきの建物がどのように配置されていたのかを明らかにするため、調査を実施しています。12月から1月は寒い日や風が強い日も多く、調査にはなかなか厳しい環境ではありますが、調査担当者、発掘作業員、国府ボランティアが力を合わせ、日々熱い気持ちを秘めて調査に当たっています。2月には現地説明会、3月には成果報告会も予定しています。今回の調査の成果にぜひご注目ください！

展示・イベントのご案内

●テーマ展『讃岐国府を探る6』
おもに平成24・25年度の調査成果を振り返りながら、文字・写真・パネルと出土遺物により、讃岐国府の中心施設の実像に迫ります。
日時：平成27年1月5日（月）～5月8日（金）まで、9時～17時
※土・日曜日と国民の休日は休館。
場所：香川県埋蔵文化財センター第2展示室
観覧料：無料

【考古学講座】

●『まだ間に合う！』
讃岐国府の基礎的な知識から、おもに32回にわたって香川県や坂出市が行った発掘調査の成果を盛り込んだ最新の情報をお届けします。
日時：平成27年2月14日（土）
午前10時～12時
場所：香川県埋蔵文化財センター講習室
講師：佐藤竜馬
（香川県埋蔵文化財センター主任文化財専門員）
聴講料：無料



『船形埴輪！』 仲戸東遺跡（東かがわ市川東）

仲戸東遺跡の調査では多量の円筒埴輪や形象埴輪が出土しました。通常、埴輪は古墳に立て並べられるのですが、遺跡の周辺では埴輪が出土する古墳は見つかっていません。出土した埴輪は破片ばかりで、なかには大きく焼け歪んだものもみられます。灰原の一部と考えられる灰や炭の堆積層、窯壁とみられる焼土なども出土しており、遺跡周辺に埴輪を焼成した窯が築かれたと推定されています。埴輪の特徴から6世紀前半ころのものと考えられます。



▲石見型埴輪の出土状況

一般に形象埴輪は、当時の動物や器物、風俗などをあつらへる程度忠実に模して製作されています。例え



▲復元された船形埴輪

ば人物埴輪からは、当時の服装を知ることができ、本遺跡で出土した船形埴輪は、大きな丸木船の甲板を組み合わせて船体とした準構造船と呼ばれる形態の船で、外洋でも航行できる性能を備えていたと考えられています。丸木船先端に取り付けられていたフエンダーや、ピポットと呼ばれるオールの軸受なども表現されています。船形埴輪は本県では高松市中間西井坪遺跡に次いで2例目、全国的には近畿地方を中心に2府14県から50例ほど出土しています。当時の倭の中心であった大阪府や奈良県周辺を除けば、宮崎県や大分県などの各2例とともに地方ではトップクラスの出土数を誇ります。大陸と畿内を結ぶ交通の要衝であった瀬戸内海に面し、古くより造船業の盛んな本県ならではの考古

旧練兵場遺跡から建物を描いた絵画土器が見つかりました！



資料ともいえるでしょう。焼き上げた船形埴輪を墳丘の上に誇らしげに据え置いて埋葬された古墳の主は、当時の瀬戸内海の海上交通に際して重要な役割を果たしていた人物であったと想像されます。

旧練兵場遺跡（善通寺市）は45万m²ほどの広がりをもつと推定される弥生時代の大集落で、銅鏡、玉類や様々な地域から持ち込まれた土器が出土し、他地域と交流も活発だったことがわかっています。建物が描かれたのは、弥生時代中期頃（約2,000年前）の大型の壺で、床と柱の表現から4本の柱を方形に配置した高床建物と考えられます。斜格子の模様がある壁、格子の模様がある屋根が描かれ、屋根には先端を丸くした屋根飾りが4本あり、建物を印象的にしています。弥生土器で建物が描かれた例は全国で約70点ありますが、約9割は近畿地方で、県内では高松市の久米池南遺跡に次いで2例目で、壁を持つ建物や屋根飾りの形も他に例がありません。地元で作られた土器に描かれており、近畿地方など他地域の土器に描かれた建物をまねたというより、実際に旧練兵場遺跡にあった建物を見て描いた可能性が高いと考えられます。絵画土器は当センターで平成27年3月31日まで展示しています。この機会に弥生時代の集落にそびえた建物を頭に描いてみませんか。